

観光×異業種

開く新たな扉

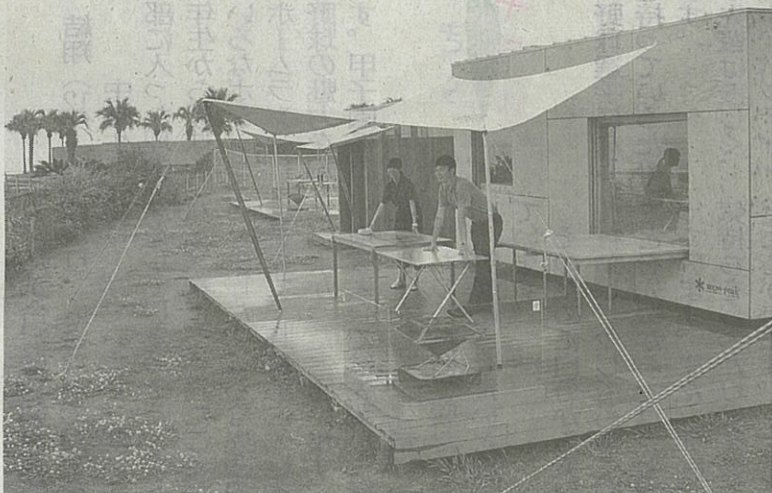
太平洋に面した三浦半島東端の海沿いに、トレーラーハウスやウッドデッキが並ぶ。観音崎京急ホテル(神奈川県横須賀市)の敷地内に設けられた「グランピング」。宿泊設備が用意され、テント設置などの作業が不要な野外体験施設で、全国的にも注目が高まっている。

同ホテルの施設は、野外体験の楽しさを実感してもらうことで自社製品の拡販につなげたいキャンプ用品販売のスノーピーク(三条市)と、新たな客層へのアプローチを図りたい同ホテルとが企画し、2017年に設置された。波打ち際での非日常体験が人気を呼び、週末は半年先まで予約が埋まる。人気の背景には、「体験

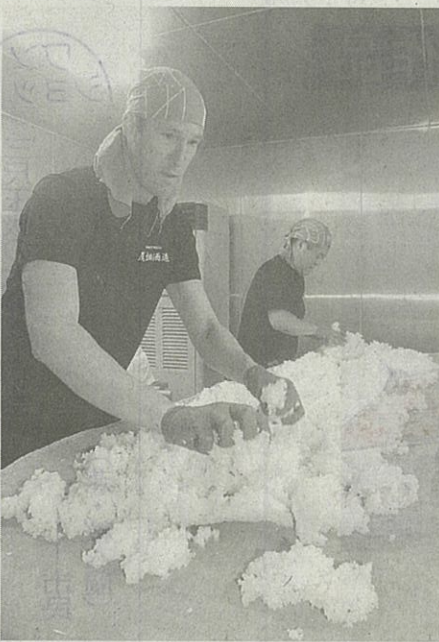
変化に挑む

体験型

非日常や学びの場提供



⑤太平洋がすぐ目の前に広がるグランピング施設＝神奈川県横須賀市
⑥酒の仕込みを学ぶ外国人。本格的な体験を求めてプログラムに参加する＝佐渡市



酒蔵での体験事業は一般 (報道部・小林純、関宏一)

訪日客向けさらに強化

型観光への需要の高まりがある。同ホテルの朝池貴之・営業部副主任(34)は「普段味わえない、ここでしかできないような活動やシチュエーションを楽しむ傾向が強まっている」と見られる。大海原や浦賀水道を行き交う大型貨物船を見ながらの上質な野外体験は、有名スポットを見て回る従来の観光とは違った魅力がある。現在は国内の利用者が多いが、20年東京五輪に向けてはインバウンド(訪日観光客)が大きく増える見込みを語る。

「辛口にするにはどうするの?」どんな酵母を使うのか。通訳を介し、蔵人に質問が飛ぶ。先月行われた体験プログラムには外国人3人が参加。こうじ作りや三段仕込みのほか、酒造りの基礎となる設備の清掃にも取り組む。豪州で酒造りに挑戦しているマイケル・ロビンソンさん(46)は「いろいろな疑問に答えてもらえる。このような場所は他にない」と満足そうに話した。

にいがた経済 Biz Niigata

的に、数時間から1、2日のプログラムが多いという。学校蔵では1週間に設定してじっくりと学べる。本県を含め日本酒の輸出量が過去最高を更新する中、本物の体験を望むファンを引きつけている。同社の平島健社長(54)は「リアルな酒造りの作業を体験、理解してもらおうと、(学校蔵は)学びと交流の場として準備してきた」と語る。

10人程度の定員は毎年必ず埋まる。宿泊先や交通手段、通訳などは参加者自身が手配しなくてはならない。それでも、ことは外国人が7人に急増した。参加者は1週間以上の滞在中、作業が終わると島内を巡り、近隣住人と親交を深めている。「生徒数は多くはないが、長い目で見れば交流人口、関係人口が増える」と平島社長。佐渡観光への波及効果も狙い、種まきを続ける。